

2003 . 4

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

五十年。水谷さんの傍らに
はいつも相棒がいた。「バイ
オリンと始終一緒ではない生
活に慣れるのに丸々二年掛か
ったよ」と苦笑する。三年前、
札幌交響楽団を定年退職。そ
れまで苦楽を共にしたバイオ
リンは、五台になる。退職時
の愛器、一六七九年製の名匠
マリアーニ作の逸品は今でも
彼の一番のお気に入りだ。

昭和十五年、樺太生れ。十
歳でバイオリンを習い始めた。
昭和三十四年に北海道学芸大
学（現教育大学）に進学。卒
業後はNHK札幌放送管弦楽
団の準団員になり、バイオリ
ニストとして腕を磨いた。当
時流行したラジオののど自慢
の演奏もしたが、「やっぱり

クラシックの公演に出演する
のが一番大切なことだった。
いずれは東京で。そう考えて
いたから。それはかなわなか
ったけれどね」と話す。

札幌交響楽団に入団したの
は、昭和四十二年。さまざま
なステージでの活躍を認めら
れてのスカウトだった。以来
三十三年にわたり、同楽団の
バイオリニストとして活躍、
三千を超える公演に出演した。
その技術と人柄で、十年以上
もコンサートマスターを務め
るなど指揮者や同僚の信頼も
厚い、生粋の「オーケストラ
マン」だ。だが、「退団後、
後輩にもっと伝えるべきこと
があったのではと考えるんだ」
と水谷さんは話す。親交の厚



今月の

人

元札幌交響楽団バイオリニスト

みずたに まさし
水谷 正志さん (六三)

(本郷通在住)

オーケストラが好きなんです
よ。指揮者や演奏者、スタッツ
フ。みんなで奏でる音楽がね。

かったクラシック音楽普及の
功労者、「ひげの指揮者」こ
と山本直純氏が、生前こう話
していたと言う。「おい水。
俺たちのような楽隊屋が少な
くなったなあ」と。「楽隊屋」
は、どんな音楽でもこなすプ
ロ魂を持ったオーケストラマ
ンを指す。古武士のような名
指揮者の、次代の音楽家への
かすかな憂いと警鐘であった
のだろうか。水谷さんは、こ
の言葉の重さを時折思う。

今、水谷さんは自らバイオ
リンやビオラの製作に挑んで
いる。「素人の域を出ないよ」
と謙そんするが、その作品に
はクラシック音楽への深い愛
情と「オーケストラマン」と
しての誇りが静かににじむ。

■編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236